



# 広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.  
2202

例会日・木曜日 12:30~13:30  
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島  
会長 森信秀樹  
幹事 謙訪昭浩

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78  
リーガロイヤルホテル広島13F  
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870  
E-mail : hwrc@godorc.gr.jp  
作成・会報雑誌・広報委員会

広島西RC [検索]

RIテーマ Light Up Rotary

「ロータリーに輝きを」

本年度会長テーマ

「魄(かい)より始めよ ロータリー」

## 世界理解月間

2015年2月12日 第2178回例会  
2月第2例会

### ◆会長時間◆

荒谷副会長



みなさんこんにちは。本日は森信会長が不在ですので、代わって私が会長時間を務めさせていただきます。何分初めての代役なので少し緊張しております。

さて、今月22日は、佐伯区五日市のみずとりの浜公園でのロータリーデーが開催されます。すでに現地では植樹やベンチの設置工事などが始まりました。先日、会長、私、金本理事、鮫島委員長とで現地に参りまして植樹の場所など最終確認をさせていただきました。

これまで、通常公園では、ベンチなどは板が腐って来ても、こまめに修理されることはありませんでした。あまりにひどい状態になって、初めて全部を取り替えるということが一般的ではなかったかと思います。また、地域住民も平素は公園を利用しながら、なかなか自主的に修理を行う機会もなく、設置管理者に取り替えなど申し出て、あとはお任せというような意識ではなかったでしょうか。本年度森信会長は、奉仕活動は「新規性より継続性」という考え方のもと、過去寄贈した平和の池多言語版の修理やみずとりの浜公園への継続

的な支援などを重視しています。また、会長テーマであります「魄より始めよロータリー」に沿って我々自身が先頭に立って自ら汗をかくことで地域での認知度が上がることも期待しています。

この公園を管理されています広島県港湾振興事務所においても我々の意図を汲み取っていただき、過去に例のないような破格の協力をしていただきましたが、地域の人たちも自分たちで塗り替えたベンチにはきっと愛着がわき、大切に利用するのではないかでしょうか。

みんなで塗り替えを行うベンチもすでに下塗りまで済ませており、当日を待つのみとなっています。天候次第ですが是非とも皆様方のご参加をお待ちしています。

### ●会務報告

謙訪(昭浩)幹事

※14日(土)、14時からグループ6・7合同インテリシティ・ミーティングがグランヴィア広島にて開催されます。出席回答をいただいている方のBOXに当日のプログラムを入れておりますので、よろしくお願いします。なお、駐車場の用意がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。また、やむを得ず欠席される方は事務局までご連絡をお願いします。

※2015-16年度版ロータリー手帳をご希望の方は

回覧にて注文を取りまとめますので記入をお願いします。

※次週例会は卓話時間を30分延長し、国際奉仕部門クラブフォーラムを開催します。

## ● 第8回理事会報告

### 1. 報告事項

1. 幹事から1月14日のRID2710広島市豪雨土砂災害復興支援助成金授与式参加の報告。先月報告の通り当クラブは上安学区社会福祉協議会のフォローを担当。
2. 合同幹事会報告。北RC主催のIM関連の連絡事項。記念事業で440万円を市へ寄付（広島市HPに13クラブ名掲載）。
3. 1月収支決算について報告。
4. ガバナー1月信 地区大会特集号の再配布について。誤字・脱字多々の為、再作成、再配布される予定。
5. 地区補助金申請状況について。自動式車いす購入希望。申請書類揃えている段階（見積待ち）。

### 2. 審議事項

1. 前回議事録の承認。
2. 鈴峯インタークトクラブ卒業生への表彰状贈呈 活動報告書を承認。
3. 鈴峯インタークトクラブ宮島そぞろ歩き歴史散策 活動計画を承認。
4. 3月～4月卓話プログラム 活動計画を承認。
5. 「スズガミネ」校への物品支援 活動計画を承認。
6. 2月19日国際奉仕部門クラブフォーラム活動計画を承認。
7. 創立45周年記念事業（植樹及びロータリーデー）について 活動計画を承認。
8. シカゴRCとの周年共同事業に係る寄付の交換等について 活動計画を承認。
9. RIJYEC維持協力金寄付について承認。地区ガバナーからの依頼で例年年間100円（会員1名当たり）を寄付。

### 3. 協議事項

1. RI会長賞要件について現状確認。

## ● 委員会報告

### ※ プログラム・出席委員会

#### 出席報告 荒川委員

本日（2月12日・木曜日）

会員数 77名 出席者 58名

欠席者 19名 ご来客 0名

ご来賓 0名 ゲスト 4名

計 62名

前々回（1月29日・木曜日）

出席率 100%



### ※ 会報雑誌・広報委員会

垂井委員

ロータリーの友誌紹介

### ※ 青少年・インタークト委員会

上田委員長

鈴峯学園IAC「宮島そぞろ歩き」のご案内

広島西RC会員との相互交流及び鈴峯学園インタークトクラブ会員の今年度活動に対する慰労を兼ね、「宮島そぞろ歩き」を企画いたしました。

毎年恒例となっている鈴峯インタークトクラブの生徒との親睦・交流事業となりますので、奮って参加くださいますようご案内いたします。

2015年3月8日(日)

- |       |                          |
|-------|--------------------------|
| 9:00  | 宮島口桟橋集合（駐車場広銀宮島口支店駐車場利用） |
| 9:20  | 宮島桟橋集合                   |
| 9:30  | 歴史散策～桟橋から山辺の古路～          |
| 11:45 | 商店街蔵宿「いろは」               |
| 12:00 | 会食                       |
| 13:00 | 散策～神社一大元公園～              |
| 14:30 | カフェ（ケーキとドリンク）            |
| 15:30 | 大鳥居へ解散                   |

定員の関係上、先着10名とさせていただきます。

### ※ 梶本次年度幹事

例会終了後、4階「ミモザ」において次年度第2回理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

## ● 会員記念日



### 連続出席100% (6名)

簞君（12年）

梶本君（10年）

原君（9年）

小田君（6年）

香川（浩）君（6年）

福田君（2年）

連続出席10年 梶本 政明 会員に記念品贈呈



### ● 例会料理メニュー



### ■ 卓 話

#### 建国記念の日にちなんで —御製に見る大御心

森脇 宗彦君

##### 口はじめに

2月11日は、建国記念の日である。日本の国の誕生を祝う日である。昭和41年に祝日となった。祝日法には、「建国を偲び国を愛する心を養う」とある。この2月11日は、初代の天皇神武天皇が奈良の橿原の宮で即位されたとされる日である。

世界には200近くの国がある。世界の国々を見ると、現在、国際問題となっている「イスラム国」や、ウクライナなどでは国の支配権をめぐって戦闘が行われている。これらの紛争を見るにつけて、国を樹立し、国を護持していくことがいかに難しいかがわかる。

世界では、第二次世界大戦以降に消滅した国が183か国（承認・未承認をふくむ）あるという（吉田一郎『消滅した国』社会評論社）。その中

にあって日本は、世界最古の君主国として現在も続いている。

建国を祝うということは、日本の国柄、「国体」をかんがえる日でもある。天皇を中心として歩んできたのが日本である。我々の日本民族の先祖が現在の皇室である。日本の国の歴史は、天皇を抜きに語ることはできない。

天皇とはどういう存在なのか。実のところあまり理解されていない部分が少なくない。その一端として天皇の御製を通じて大御心、国民へのメッセージを拝してみたい。

##### □ 宮中歌会始めの御製

今年1月15日に歌会始めの儀が催された。宮殿松の間で行われ、今年のお題は「本」であった。宮中の歌会始めの儀は、日本の和歌の伝統を受け継いでいる宮中の伝統行事である。

夕やみのせまる田に入り稔りたる

稻の根本に鎌をあてがふ

今年の天皇陛下の御製は、日本の国柄がもっともよくわかる御歌である。皇居の中に水田があるなどという驚かれる人も多い。天皇陛下が、水田で稻作をされるためにある。先進国の中に君主が稻作をされる国はない。日本にのみある。日本独自のものであり、これこそが日本なのだ。

皇居の水田は決して広くはない。陛下は春には耕種をまかれ、田植えをなされ、秋には収穫される。米つくりを自ら行われる。米つくりにいそしむ国民の生活を体験される。

稻であることに意味がある。稻は日本人にとって生活の糧となり、米は主食である。稻作が日本人を作ってきた。体も心も作ってきた。稻作によって日本の文化が培われたといつてもいい。日本人のDNA、遺伝子はここにある。大陸から稻作は伝わった。それによって、日本人の生活が大きく変わっていた。縄文から弥生文化へと移行したという。稻作がもたらした変化である。稻作は共同作業である。地域、村といった社会から国へと統一された。日本人のもとは稻作にあることは疑いがない。

日本人は稻作を、神聖なものとしてとらえた。それを神々の物語としてつたえた。いわゆる神話である。稻作を最初に行ったのは高天原におられ

た天照大神であると神話はつたえる。天照大神は日の神ともいわれ、恵みをもたらす太陽神であるとも言われる。

神話の世界では、高天原、葦原中国がある。高天原は神々の世界である。葦原中国はこの地上の世界、人の世界である。高天原から天照大神の子孫ニニギノミコトが降臨して、この国を統治したと神話は教えている。天孫降臨という。降臨に際して、下されている三大神勅のひとつが「斎庭の稻穂」の神勅である。日本書紀に伝える。

「吾が高天原に所御（きこしめ）す斎庭の穂（いなほ）を以て、亦吾が児（みこ）に御（まか）せまつるべし」

稲作の起源となるこの神勅を実践されているのが天皇陛下だ。

天皇陛下が水田で刈り取られた稻穂は、伊勢の神宮の10月の神嘗祭にお供えになる。またその稻穂は掛税（かけちから）として外玉垣にかけられる。また収穫された稻は11月の宮中の新嘗祭にお供えになる。

宮中で行われる祭りを宮中祭祀という。お祭りは天皇みずからされる祭りも多い。新嘗祭もその一つである。陛下は祭祀に非常に熱心だと漏れうかがっている。常に「国安かれ、民やすかれ」と祈られる祭祀王が天皇なのである。

順徳天皇の『禁秘抄』には宮中の行事が書かれている。その冒頭にこうある

凡そ禁中作法は、神事を先にし、他事を後にする、旦暮敬神の叡慮懈怠なし、あからさまにも神宮ならびに内侍所の方を以て、御跡としたまはず。（原漢文）

この精神は今も受け継がれている。この伝統は永遠に受け継いでいきたいものだ。

## □結び

国民とともに歩まれる天皇陛下・皇室である。天皇は国民統合の象徴である。権力の象徴ではない。名誉の源泉として存在するのが皇室である。決してピラミットの頂点ではなく、球の中心としての存在が天皇であると考える。

戦後70年の今年は、戦後見失った、捨ててしまったものを再発見するときではなかろうか。戦後の教育は神話教育を始め、多くの日本の歴史を否定してきた。「幼少時に、神話を教えたかった

国は亡びる」とまでイギリスの歴史学者トインピーはいった。日本人のルーツを教える神話はこれからも必要な國の力になることであろう。そういうことを信じている。日本の良さを再発見するときにきている。

昨年亡くなった俳優の高倉健さんは平成25年文化の日に、天皇陛下から文化勲章を手渡された。受賞の記者会見で「日本人に生まれて本当に良かったと、今日思いました」と喜びを語っている。そんな日本人を育てていかなくてはならないと痛感しているところである。



## ●卓話予告

日 時	テ　ー　マ
2／26(木)	新会員卓話 原爆手記朗読
	林田　博君 松岡幹太郎君